

大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議

第6回 大阪駅周辺地域部会 議事録

開催日時：平成 26 年 12 月 18 日（木） 9:30～11:00

場 所：ヴィアーレ大阪 2階 安土の間

1. 開会

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、定刻になりましたので、会議を始めさせていただきます。

内閣官房の伊藤次長、新幹線雪のため、若干遅れられると聞いておりますが、よろしくお願いたします。

本日、司会進行役を務めさせていただきます、大阪市都市計画局長の川田でございます。よろしくお願いたします。

なお、会場には、傍聴の方々をはじめ、報道関係の方々も多数御来場いただいておりますが、皆様方の御理解をいただきながら、会議を円滑に進行させていただきたいと考えておりますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、議事に先立ちまして、本部会の部会長であります橋下市長より、一言御挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願いたします。

橋下大阪市長

済みません、おくれまして。お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

一昨年9月の発足以来、いよいよ今回で6回目の部会の開催となります。小林先生を座長に御議論いただきまして、検討会というか取りまとめ案について今回の報告があると聞いております。また、今回、確認いただいた方針案については、年末よりパブリックコメントを実施しまして、年度内に方針を決定していきたいと思ひます。

当初、僕と知事で、「みどり」を軸に斬新なまちづくりをというようなかけ声をかけたところ、このように皆様の御協力を得て、ある程度、方針といいますか、そういうものが固まったことについては大変うれしく思ひますし、また、担当局、行政は本当によくやっ

てくれたと思っております。

この「うめきた」というものが西日本の、ある意味エンジンになって、東京一極集中是正と言われている中で、みんな政治家は一極集中是正というだけで、実際にじゃあ何をやるのかということになると、具体策はないのですけれども、この「うめきた」のまちづくりは東京一極集中是正の象徴例になるかと思っております。

東京、そして大阪、二つのエンジンでこの日本を引っ張っていくための、本当に有効な、効果的なツールだと、うめきたのまちづくりは思っていますので、きょうの方針の取りまとめをもとに、さらにまちづくりをどんどん進めていきたいと思っておりますのでよろしく願いします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

本日、御出席いただいております皆様方の御紹介は、配席図をもってかえさせていただきます。と思えます。

それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議題は、うめきた2期区域まちづくり方針についてでございます。

それでは、担当部長より、配付資料の確認と資料の説明をいたします。

2. 議題

- ・うめきた2期区域まちづくりの方針について
- ・その他

柏木うめきた整備担当部長（大阪市）

本日は、多数の方が傍聴に来られておりまして、定数の10名を上回っておりますが、全員の傍聴を認めるということで、市長よろしいでしょうか。

橋下大阪市長

はい、大丈夫です。

柏木うめきた整備担当部長（大阪市）

それでは、入っていただいでください。

それでは、まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。

～ 資料確認（省略） ～

それでは、うめきた2期区域まちづくりの方針につきまして、御説明をさせていただきます。

～ 資料説明（省略） ～

川田都市計画局長（大阪市）

少し長くなりましたが、説明は以上です。

それでは、これから御質問ないし御意見をいただきたいと思ひます。

時間の都合もござひますので、1人3分程度でお願いしたいと思ひております。

今回、まちづくりの方針案という、最後の議論をしていただくということとあわせまして、前回我々これをどう進めていくか、年内にある程度、事業の方向性を定めたいということ事務局側から申し上げたこともござひます。

そういったことも踏まえて、冒頭、ちょっと失礼なのですが、市長のほうから少し御発言いただきたいと思ひます。

橋下大阪市長

本当は負担というか、お金の話も決めましょうということだったので、これは年度内ぐらいでいいということですか、国のいろんな関係もあるので。

川田都市計画局長（大阪市）

基盤整備等については来年度予算に計上し、全体のスキームとしては年度内にかかっていくというふうに考えております。

橋下大阪市長

年度内ということで、はい。

「みどり」のところなんですけれども、これは、同友会のほうからいろいろ御意見をいただきまして、「みどり」を増やすべきだと。その本格的な「みどり」を増やすべきだという話だったんですが、そういう意見もいただいて、おおむね4ヘクタールの都市公園となっていますけれども、これは府市協力して、4.5までは目指していきたいと。都市公園、これを実現していきたいと思っています。

いろいろ、僕も「みどり」「みどり」と言っていたんですけれども、いろんな意見もありながら、ここまでまとまりまして、同友会のほうからも意見もいただいて、おおむね4というところは4.5までは何とか増やすようにと、そこまでは実現可能ではないかというところになっていますので、これは同友会の意見があって可能な限り、できる限り「みどり」を増やすことができたんじゃないのかなと思っています。あわせて8ヘクタール、その他も含めて8ヘクタールの「みどり」の中で、4.5ぐらいの都市公園、何とか実現に向けて頑張ってもらいたい。府市あわせて、協力して頑張りたいと思います。

それから、経済界のほうにお願いしたいところなんですけれども、関西経済の発展につながる中核機能が実現するためにも、URが土地取得を行えるよう、さまざまな御支援を何とかお願いしたいと思っています。

URのほうには、鉄道機構の土地を一括で取得して、都市基盤整備と民間開発の誘導を一体的に実現していただきたいと思っています。

鉄道運輸機構のほうには、何とかこのうめきたまちづくりを実現するために府市も最大限頑張ってくださいますので、用地の売却については引き続き、前向きな協議をお願いしたいと思っています。

それから、JR西日本さんのほうには、うめきた2期の玄関、下のなにわ筋線というところは、府市頑張ってくださいますし、何とかアジアのゲートウェイというか玄関口、そのうめきたということでしっかりと位置づけていきたいと思っていますので、その新駅と駅前広場づくりで、ぜひ御協力をいただきたいと思っています。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

幾つかございましたのですが、引き続いて、関経連の森会長のほうから御発言いただきますでしょうか。

森会長（関西経済連合会）

関西経済連合会の森でございます。

先ほど説明がございました、まちづくり方針案につきましては、真新しい関西の顔となる「うめきた」にふさわしい方針をつくっていただいたというふうに思っております。

本当に短い期間ではあったわけですが、まちづくり方針を取りまとめていただいた、きょうは欠席されておりますけれども、小林先生をはじめ、本当に参加していただいた先生方、大阪府市の皆様方には努力に対して心から敬意を表したいというふうに思います。

今、橋下市長からお話がありましたように、UR様に、都市基盤の協力いただくことで、我々もしっかりそれをサポートせよということがございましたが、URさんを中心に基盤の整備に当たって調整を進めるということは非常に、うめきたのまちづくりについて、非常に大きな追い風にもなると思いますし、大変、我々にとってもありがたいことだと思いますので、URさんにもよろしくお願ひしたいと。あわせて我々も、できるだけことはしっかりとやりたいと思います。

それから、まちづくりでURさん、それへの協力ということをあわせて、まちづくりの全体について経済界も協力をせえと、こういうふうに私は思っておるわけですが、これは当然のことながら、全力を挙げて協力して、関西の顔にふさわしいうめきたづくりに貢献をしたいと。こういうことを前提にいたしまして、私から一点意見を申し上げたいというふうに思います。

これから、2次募集から事業者の決定とステップを進めることになってくるわけですが、うめきた2期の中核機能として新産業創出、国際集客交流、知的人材育成と、こういうことが挙げられていますけれども、グローバルな都市間の競争が激しさを増す中で、実際こうしたことを具体化するには、なかなか一筋縄ではいかない問題だというふうにも思っています。さらに、広大な「みどり」との相乗効果を出すという大きなチャレンジをするわけですから、これは本当にかつてない、前例のないチャレンジだというふうに思っております。

今回、策定いただいた案では、民間の自由な発想を尊重していただいているというふうに思うわけですが、その点は大いに歓迎するところですが、このチャレンジを成功させるためには、やはり、引き続き行政にもサポートしていただいて、民間の力を

最大限に発揮できる環境づくりをぜひお願いしたいなというふうに思います。

少し具体的に申し上げますと、例えば、国家戦略特区の都市再生分野での具体的な規制緩和、これを要望していくことが必要ではないかなというふうに思っています。

そういう規制緩和、どういう規制緩和が必要か、これから議論がいるとは思いますがけれども、そういうことによって「みどり」の、緑地のにぎわいを増すための新しい、今の規制の中ではできないようなこともできるようにもなると思いますし、その規制を緩和することによって、民間の発想の幅も大きく広がってくるというふうにも思います。

それから、また新産業創出、国際集客・交流、知的人材育成という3つの中核のイメージが、まだ少し抽象的にすぎるのかなという気がしてしまっていて、これをもう少し掘り下げて議論することが、実現性が高まる、また、民間も非常に提案が、思い切った提案がしやすくなるのではないかなというふうに思います。

その中には、官民の役割分担という点にも、この3つというのは必ずしも民間だけではなくなかなかやりにくい、手を出しにくい分野もありますので、これは官のほうにも随分お力をいただかなければならないところもあると思いますので、そういう役割分担も含めて、少し掘り下げた議論をやっていただければ、民間の発想は大きく広がっていくのではないかなというふうに思います。

ですから、我々としてもしっかりとやりますけれども、そういうことをやるために、平成28年に2次募集をするわけですけれども、準備期間を考えればそれほど大きな時間は残されていないのですが、早急にそういう検討する場を設けて、もう一步掘り下げる議論をしていただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

私からは以上です。

橋下大阪市長

今の森会長から指摘を受けた、その検討する場というのは、今後の方針というのはどうなるんですか。

川田都市計画局長（大阪市）

今、森会長から民間の事業者が出やすい環境というんですか、そういうので掘り下げるというか、つくってお話がありましたので、我々としては大阪府市と経済界の方々、それと、できればURさんも入っていただいて、こういう企業の立地がどういう形で実現をできる

か、少し掘り下げた検討案を早期につくりたいと思います。

橋下大阪市長

しっかりその場をつくりますので、ぜひ、御参加のほうをよろしく申し上げます。

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、大阪商工会議所の古川副会頭、よろしく申し上げます。

古川副会頭（大阪商工会議所）

大阪商工会議所の副会頭をさせていただいてます古川でございます。

うめきた2期区域のまちづくり目標でありますということで、ただいま御説明していただいたわけですが、**「みどり」と「イノベーション」**の融合拠点についてということでございました。

本件につきましては、大阪商工会議所でも全く異存ございません。大いに賛成でございます。世界に冠たる都市づくりをしていただきたいと思っております。

しかし、今後、この目標実現に向けては、**「みどり」**を維持管理するコスト、これが必要であります。そのためには、付加価値の高い都市機能を集積させていくことが大変重要であると考えております。

この点におきましては、イノベーション拠点としての役割に大いに期待しておりますが、第1期のナレッジキャピタルには会員制サロンがございますが、いつ訪れましても満席で、大変な人気ぶりであります。企業人、研究者、クリエイター、さまざまな人たちがそれぞれに熱い議論を交わしておられる光景は大変活気に満ちており、**「イノベーション」**を生み出すためには、こうした交流拠点が大きな役割を果たすものと考えております。

第2期におきましては、1期との連動を十分考慮しつつ、世界から人材・技術を引きつける付加価値の高い中核機能を設定し、多様な交流の中から新たな価値を創造できる拠点にしていくことが強く望まれると思っております。

現在、中核機能として提示されております新産業創出、国際集客・交流、さらには知的人材育成は、いずれも新たな価値創造につながるものであり、関西のリージョナルコアに立地する**「うめきた」**にふさわしい規模と考えております。

加えて、私からお願いをしたいのは国家戦略特区の連携であります。この特区は5年間

が一つの区切りとなっており、2期の開発スケジュールとは合致しないところがございますが、産業の国際競争力を強化するとともに、国際的な経済活動の拠点を形成するという特区の目的は新たな国際競争力を獲得し、我が国の成長エンジンとして世界をリードするイノベーション拠点を目指すという2期の方向性とも合致しているところでございます。

国際的な都市間競争が激化する中、うめきたが世界をリードするイノベーション拠点として、存在感を発揮していくためには大阪、関西が強みを有する分野であり、かつイノベーションや産業発展の可能性が高い分野に集中投資していく観点が重要であります。

健康・医療分野における国際イノベーション拠点の形成と、チャレンジングな人材が集まるビジネス環境を備えた国際都市形成を目標に掲げる関西圏国家戦略特区は、まさにこうした観点を踏まえて選定されたものであり、うめきたと同じく国、地方自治体、民間が一体となって取り組むプロジェクトであります。

この両者が連携し、整合性をもって事業を推進していくことが、大阪の国際競争力の強化に不可欠と考えております。

以上のとおり、私からは、うめきた2期区域のまちづくり方針の具体化に際しては、国際国家戦略特区と連携することを提案させていただきたいと思っております。

最後に、先ほど関西経済連合会の森会長もおっしゃいましたが、求められる中核機能のあり方を検討する場を設けていただきますよう、私からも重ねてお願いを申し上げます。

今後、2次募集を始めるに当たっては、3つの中核機能の中身について、応募者が具体的なイメージをわかるような形で示すことが必要ではないかと存じます。

以上でございます。ありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございました。

ちょっと国家戦略特区の話が出たので、伊藤次長、少しコメントあればいただきたいのですが。

伊藤次長（内閣官房地域活性化統合事務局）

まず初めに、ちょっと雪で1時間新幹線が遅れまして、大変遅れて申しわけありません。

今、お話をいただいたとおり、うめきた、関西の中で非常に大事な地区ということで、国家戦略特区という形で位置づけをさせていただいているところでございます。

ただ、それにしても、今、お話をいただいたとおり具体的に、要は場はあるということですが、じゃあその皿に何が盛るかということが、当然、大事になりますので、それによって、じゃあどんな規制緩和が必要なのかということで、当然変わってくるというふうに思っています。

そういう意味では、今、お二方から御提案いただいた、具体的に何を入れていったらいいかという議論をしていただいて、都市再生のほうの容積緩和が必要なのか、それともほかの入るものの関係でのいろんな規制緩和が必要なのか。多分、そういうことがいろいろ出てくるのではないかとこのように思っておりまして、当然、国としてもそういうことをいただければ、非常に関西というより日本にとってとても大事な「うめきた」でございますので、受けとめて一生懸命応援をさせていただくということに尽きるのではないかとこのように思っております。

どうぞよろしくお願いたします。

橋下大阪市長

ちょっと一点つけ加えて。

国家戦略特区、今、安倍政権もがんがん旗を振ってもらっているのですけれども、実は、岩盤規制はドリルで打ち砕いていくというところで、一つ仕組みで大きな問題がありまして、これを今から僕ら府市で、また官邸のほうにもお願いしに行こうと思っているんですが、実は国会議員の、いわゆる国会議員と業界を含めてのこの岩盤規制と同時に、地方議会とその地方での岩盤というものがありまして、国家戦略特区の中で一つ、たしか政府のほうからも出てきた、外国人に対して空き屋を旅館業法の特例でやろうという、そういう案が出てきたときに、地方議会で否決になってしまうんですよ。

ですから、この国と地方の関係で幾ら国が旗を振ってくれても、地方のほうで否決否決となつて、これは、もう僕の政治力の不足というところもあるんですけれども、ただ、これは国も地方も同じような状況で、ここをどういう仕組みでやっていくのか。国家戦略特区なので、ある意味国が旗を振って、民主的な正当性をそこで注入するのであれば、地方はある意味国家戦略特区なので、それに自動的に追随していくというような仕組みもありなんじゃないかなと思って、これは民主主義なので、どこまでどうするのか難しいんですけれども。ただ、非常に国家戦略特区で今、僕らが今度ぶち当たっているのは、国のほうでは突破していってもらっているんですけれども、地方のほうで、そこで阻止されてしま

うという、そういう現実があるというところもぜひ御理解いただいて、今後どうしたらいいかということ、また、お知恵をお借りしたいなというふうに思っています。

僕らが政治をちゃんとやれよと言われてたらそれまでなんですけれども、そういう状況があります。

松井大阪府知事

国家戦略特区なんですけど、国家戦略特区は大阪府域全体で指定を、エリアとしての指定をいただいていますので、この「うめきた」がこれからの関西の成長の核として、具体的にどの分野かという、やっぱり健康とか医療のところなのですよね。これを、ぜひ具体的に提案していきたいと。

海外では、やっぱり自由診療等々、これは認められている分野で、まずは健康であり続けるための早期診療を外国人ドクターを含めてやれるように、ちょっと具体の提案はこれから詰めていきますけれども。これがまた、その医療とか特区の提案というのは大体、今、1年半ぐらい協議だけが、協議協議で答えが出ていないところがいっぱいありますので、ここは、ぜひ、また、ちょっと伊藤さんにお力を借りたいと、こう思っています。

区域会議は近々、3回目の区域会議がありますけれども、なかなかその中でも、こちら側が10も20も言っていくと、ちょっと前に進むのが2つ、3つというところになってきますので、それをぜひ、全て連携して、関係性があるので、いろんな形で岩盤規制を打ち破るというところで、我々も具体の提案をしますので、答えをスピーディにぜひ返していただけるように、ちょっと御協力いただきたいなと思います。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

我々というのも、うめきたの先ほどの検討の場で、少し具体的にどういうものを想定したときに、どんな規制緩和が要るのかとか、ある意味、国家戦略特区では当然、財政支援というのはないんですけれども、大きな国家プロジェクトとして国、地方がどういった形でサポートできるのかということ、少し具体的なシミュレーションを幾つか設定して、議論していきたいと思っておりますので、その結果を踏まえながら、また伊藤次長等、ほかの国の方々とも御相談したいと思います。

それでは、経済同友会の篠崎さん。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

篠崎でございます。最初に、先ほどの「みどり」の4ヘクタールを、4.5ヘクタールに広げていただいたこと、ありがとうございます。お礼を申し上げます。

私ども、本当に長年、うめきたの雰囲気ですばらしい「みどり」と水の空間をつくられたいと願っております、すばらしいうめきたの公園、未来への投資、災害時は命を守る拠点でもありますし、子供たちや孫にも残す資産でもある。これは、やっぱり圧倒的な規模の確保と質の高さが必要であり、専門家からは、ほんまもんの「みどり」をできるだけ、可能な限り広くという意見もいただいております。

そういった意味ですから、大阪市と府ができるだけ広い土地を確保して、公園として整備して、民間に過度な負担をかけずにより「みどり」をつくることを願っております。

その観点で、きょう、4ヘクタールという資料を市長が、いろいろと努力を重ねていただいて4.5ヘクタールに広げていただいたことを評価いたしております。ありがとうございます。

まちづくりの目標、きょうも御紹介ございましたが、世界をリードするまちというまちづくりの目標がございます。世界都市は、今や緑地創造を競っていることは、これはもう皆様御承知のとおりです。世界都市はどこもみな同じように資金調達や利害調整に苦心しながらも、都心の一等地に大胆に「みどり」を生み出して都市の魅力をつくり出しています。それが世界水準なのです。

公園は社会の共通資本であり、子供や孫や、その次の世代に受け継ぐ大きな資産です。重要なのは、世界の都市間競争の中で埋もれてしまわない規模と質を備えた「みどり」をつくり出さなければいけないということです。

その観点から、4.5ヘクタール、これは道路を除く10ヘクタールの中では、まだまだ小さいと思います。ぜひ市長に、もう一段の努力で、より広げていただけるように、公園の面積がもっと大きくなるように、可能な限りの努力をいただくようお願いをします。

もとより、うめきた2期の「みどり」だけを考えるのではないと。この「みどり」を順次、区域の外側に広げて、淀川や中之島とつないだ都心の「みどり」のネットワークを生み出して、すばらしいまちにするのだということも重要ですし、公園や民間の「みどり」の質について、これから着工までの間に、質については世界からまた英知を集めてデザインし設計し、すばらしい質の高い「みどり」を生み出すことは、まだ可能です。

ただ、ここで申し上げたいのは、うめきたの公園の規模は今、まさにここで決めるということになります。規模に関しては、やはり世界都市大阪、関西の命運をかけた決断ということになるかと思えます。資金の問題も大変なことは承知の上で、後世の人々から昭和の御堂筋、平成のうめきた公園と並び称される永続性のある魅力的な「みどり」をつくり出すために、今、ここで100年の長期的な視点に立って、もう一段広げていただくよう、さらに部会長の橋下市長をはじめ、部会メンバーの皆様に重ねてお願いをいたします。よろしくお願ひいたします。

橋下大阪市長

いろいろ御意見をいただきました。

僕は、行政でも余り中途半端なことを言わないので、すぐに嫌われちゃうんですけども、前向きにとかは言いません。申しわけないですけど、4.5で決めさせてもらいたいと思っています。これ以上は、ちょっと現実的に無理だと判断をしております。そのかわり、トータルの8ヘクタールのところは、しっかり、あわせてやってもらいたいと思います。

同友会の皆さんからの御意見、しっかりと受けとめて、ここまで局にも頑張っ、ハッパをかけてやった結果、この4.5というところがもう最終の判断というところで御理解をいただいて、以後、この計画進めていきたいと思ひますので、4.5で決定をさせてもらいたいと思ひています。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

本当にだめですか。0.1ヘクタールたりとも無理なんですか。

橋下大阪市長

それが0.1か0.05なのか、その辺はざくっと、またあれですけども、基本は4.5の枠で。そのかわり、僕は局のほうにずっと言ってきたのは、行政は過去の都市計画に引きずられて、ずっとこうなっていますから、東西道路については面積を広げるどうのこうのではなくて、東西道路のあり方についてはしっかり協議をしてほしいと。ただ、交通の問題とか周辺の、あそこを開発をした民間事業者の皆さんも、東西道路について期待を持っている方々もいらっしゃいますので、そこのコンセンサスを取りながら、過去は東西道路、都市計画で決定していますけれども、今の交通状況のあり方を踏まえて、どうするかとい

うところは、しっかりと協議をしてほしいということは指示をしています。

実際にいろいろ検討していますので、そういうことで頑張っていきたいと思いますので、広さについて、ここで広げるどうのとまた僕が言ってしまうと、また検討とかなんとかとなってしまうので、申しわけないですけども、ここまで検討して、各メンバーでいろいろ検討した結果、最終的にここまで、4.5までは頑張ろうという話になりましたので、ぜひ、そちらで御理解をいただきたいと思っています。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

今のお話は、東西道路に関しては公園の一部のような使い方、形態的に可能であるというふうな期待を持ってよろしいのでございましょうか。

橋下大阪市長

そこは廃止も含めて検討してほしいと言っております。東西道路の位置づけが今、もし変わってきているのであれば、交通状況等も踏まえて、廃止も含めて都市計画の変更、それも含めて検討してほしいと。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

もう一点よろしいでしょうか。

8ヘクタールの「みどり」ですけれども、民間の方々に提供をしていただくわけですが、それが永続的に担保されるという制度で、きちんと法的に担保していただけるようにお願いいたします。

橋下大阪市長

それ、制度は。

川田都市計画局長（大阪市）

その辺については民間事業者の提案を踏まえて、我々が地区計画、都市計画制度を持っておりますので、都市計画手法を使って、きちんと法的担保をとっていきたいと思っております。

橋下大阪市長

ここまで強い御意見をいただいて、4.5の枠でありながら、ちょっとそこが広がるとか何とかはまた、いろいろあるでしょう、やっていきながらね。行政だから4.5と、0.1から何から、ないということもないでしょうから、へた地を使うとかなんとか、いろいろ考えます、それは。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

整数にしていだけないでしょうか。

橋下大阪市長

ごめんなさい。そこはちょっと4.5の枠の中で、あとは、へた地とか集めて、ちょっと1平方メートル増やしましたとか、何とか頑張ります。そこは任せてください。もう篠崎さんが言ってくださったので、0.5までは何とかいきましたから、後は任せてください。頑張ります。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

信頼してお任せします。

橋下大阪市長

はい。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。プレッシャーがかかりましたが、何とか基本線を踏まえながら、少しいろんな工夫は考えたいと思います。

橋下大阪市長

東西道路の協議のほうも。

川田都市計画局長（大阪市）

市長からも指示を受けてますし、我々も9月1日の部会から検討し、交通管理者とも協

議させていただいております。

簡単な協議にはならないんですけども、我々としては、そういう皆様方の思いがございますので、それを前提にして、何とか課題が解決できないかという観点から、協議を進めていきたいと思っております。

橋下大阪市長

交通渋滞の件とかもいろいろありますから、しっかり行政で揉んでもらって、周りの皆さんもその道路を期待している人もいるんでしょうけれども、ただ、都市計画がこう決まっているからこうやるじゃなくて、もう一回しっかりと行政で、しっかりと揉んでもらいたいんですけどもね。

川田都市計画局長（大阪市）

そこは、都市計画の変化が今回の方針の前提になりますので、それを踏まえてやりたいと思います。

橋下大阪市長

経済界の皆さんから御意見いただいた、検討の場はつくるということですけど、これはいつぐらいに発足したものを深掘りしていくんですか。森会長のほうも時間的に余裕がないんじゃないかと言いましたけど。

川田都市計画局長（大阪市）

年明けにはスタートできるように、準備したいと思います。

橋下大阪市長

ちょっと中核機能をしっかりと掘り下げていきますので、民間の皆さんがどんどん参加できるように、何か後ろのほうで、大丈夫ですか、年明けぐらいからのスタートで。ちょっとスピード感、難しいですか。

川田都市計画局長（大阪市）

大丈夫です。

橋下大阪市長

じゃあ、お願いします。

川田都市計画局長（大阪市）

はい。

UR都市機構の伊藤支社長、お願いできますでしょうか。

伊藤支社長（都市再生機構）

私どもURに対しまして、市長からもいろいろな経済界の方からも強い期待をいただきまして、まことに光栄に存じております。

今回も独特の、先ほども御説明ありましたように、プロセスにおきまして民間の方々の対話もしながら、大きなまちづくりの基本構想というものは、ここまで来たこと、関係者の皆様に私からも敬意を表したいと思えます。

この関西経済界全体、トータルとしても重要な関西地域全体の未来にかかるプロジェクトでございます。しかも鉄道の連立事業と一体となりました、長期にわたる大変複雑な事業というふうに認識をしております。私どもURとしても、お役に立てることがあると、そういう可能性があると思っておりますし、また、一定の役割を果たすべきだということも思っております。

今後、タイトなスケジュールでございますけれども、関係者の方々と精力的に協議を行ってまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

それでは、鉄道運輸機構の瀬川参与のほうから一言お願いします。

瀬川参与（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

本日、ここまで方針を取りまとめられました皆さんの御労力に対しまして、心より敬意を表するものでございます。

先ほど、市長さんのほうから土地の購入について、前向きに検討するようというお話

でございました。また、URさんのほうで一括購入されると。あるいは公園を4.5ヘクタールにされるというようなことで、基本的な前提条件が整いつつあると思いますので、その中で我々としても、できるだけ速やかに協議を進めて、めどをつけてまいりたいと思っております。

私どもの状況をちょっと御説明させていただきますと、実は旧国鉄から9,200ヘクタールの土地を引き継いだんですが、そのうち今残っておりますのは、この「うめきた」と仙台の長町というところだけでございます。

仙台のほうの土地は、実は東日本大震災の応急仮設住宅にかかわっています。それで残っているというような状態でございます。この土地が売れば、実質的な意味では処分完了というようなことが最後にフィナーレというような土地でございます。我々としても積極的にやってみりたいと思っております。

また、あわせて更地化のほうの工事につきましては、一応、順調に進んでございます。本年度来に更地化をしますというお約束については、守れるものと考えております。

ただ一部、文化財の調査等がございました。これらにつきましては、やはり開発時に開発事業者さんのほうで行っていただかなければならない問題等もございます。これはもう時節の売却を進める交渉の中で同時に整理をして、こんなことが必要になりますというようなことは整理して引き継ぎたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

そうしましたら、JR西の真鍋社長のほうから、よろしく願います。

真鍋代表取締役社長（西日本旅客鉄道株式会社）

JRの真鍋です。本日は方針をまとめていただきまして、今後、スピード感が出てくるものと期待しているところでございます。

方針の中にも触れていただいておりますけれども、2期エリアの人の流れということで、一つは新駅から2期エリアへの動線をしっかりしていただくということが大事だと思っております。あわせて、新駅から大阪駅方面への地上部の円滑な動線ということも大事かと思っておりますので、今後よろしく願いしたいと思います。

特に地下駅でございますので、地上部から見ました新駅の位置のわかりやすさというの

も大事になってくると思いますし、大阪駅との円滑な動線として2階部分とのつながり等の、ちょっと具体的で恐縮ですが、デッキ等の可能性なんかもあれば御検討いただければと思います。

それから、もう一つ、市長様のほうからゲートウェイのお話がありました。私のほうも大阪のゲートウェイにふさわしい、そういう駅、広場にしていかなきゃいけないなというふうに思っておりますが、来年度後半から工事着手ということになると思いますけれども、関係者の御協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

ゲートウェイにふさわしいというのは、駅とか広場だけではなくて関西一円、特に関空からの輸送というのは工夫も大事だと思いますので、アジアのゲートにふさわしいように努力させていただきたいと思います。

川田都市計画局長（大阪市）

それでは、日本郵政の井上様。

井上執行役（日本郵政株式会社）

代理でございます。

きょうは、「みどり」が大きく広がったというお話は伺いました。ぜひ、いろんな難しい問題があるんだと思いますけれども、皆さんの要望に沿った形で進んでいったらいいなと思っております。

今、真鍋社長からお話がありましたけど、新駅というものについては、まず「うめきた」とはまた別の機能かなという部分もございまして、やはり今、大阪駅の周辺に非常に大きく事業所が集積していつているということで、やはり世界と戦っていくためには、やっぱり空を制していかないといけないというのが原則ですから、それと飛行場と駅というものの関係は、ついてはその駅と周辺地域とも、やはりアクセスのよさとか、非常に重要になってくるのではないかというふうに考えてございます。

同じ小林先生が座長をされております横浜駅でも、非常に鉄道の乗りかえ等が不便だということで、新しく考えるにはターミナルコアという考え方を採用して、できるだけ人が、特に海外から来た人は大きなバッグを転がしながら歩いているときに、上がったたり下がったりというのは、なかなか厳しいよねと、少しでも早く目的地に行けるような、あるいは乗りかえができるようにしていこうというような考え方で、地権者他と皆さん話し合

っているということもございますので。

やはり、この大事な場所の中で、さらに大事な施設が入ってくるということですので、ぜひ、これを地域の一つの大きな力になるように検討していただいたら、私ども周辺のものとしては大変ありがたいなというふうに思っております。よろしく願いいたします。

橋下大阪市長

今回、この方針で、なにわ筋線がかなり前面に出てきているところもあって、僕も知事もそういう指示を出しながら、前面に出てきました。

関西国際空港とうめきたを直結させるという視点で、このうめきたを位置づけていますので、JR西日本さんや関係の鉄道事業者さんの皆さんと、それから大阪府、大阪市でこのなにわ筋線についてしっかり検討、これを加速して、やはり空港と都市の拠点というものを結びつけるような、もうこれは都市戦略の基本中の基本のことで、今まで大阪が一番欠けていたところだと思いますので、空港と鉄道のこの戦略の一体性のなさが大阪の衰退をある意味招いてきた最大の要因だと思っております。今、知事にも頑張ってもらって外国人観光客もどんどん増えてきていますから、どうこの都市の中心部に円滑に輸送するかという視点で、これはもう大阪のミッシングリンクの淀川左岸線の延伸部とも同等か、それ以上の位置づけで、なにわ筋線の検討を鉄道事業者の皆さんとしっかり協議をしてください。

川田都市計画局長（大阪市）

非常に時間は限られているのですけれども、早急に詰めていきたいと思っておりますし、JR西日本さん、南海さんと密にやっていきたいと思っております。

少しなにわ筋線の話が出ましたので、近畿運輸局長の土屋局長から一言、御意見いただけますでしょうか。

土屋局長（国土交通省近畿運輸局）

初めに、方針の取りまとめをされました関係者の方々に敬意を表します。

なにわ筋線につきましては、たびたび出ていますように関西空港のアクセスですとか、都市間ネットワークとか、意義は大きいと思っております。一応、運輸局でも何回か調査

をしてきておりますので、後は関係者の方で検討を加速していただいて、それを踏まえて対応をしていきたいと思っております。

それから、これを機会に、ちょっと関係のことについてコメントさせていただきたいと思っておりますけれども、先ほどありましたように、このうめきた地区に新駅ができる、これは東海道支線地下化事業の一環でありますけれども、やはり、これもまちづくりと整合をとりながら粛々とスケジュールどおり進めていくことが重要だと考えておりますので、関係者の方々にどうぞよろしく願いいたします。

それから、もう既に方針の中で触れられておりますし、私も前回発言しましたけれども、2点申せば、やはり同時にうめきた地区でできる、新駅を中心としてでき上がるんですが、大阪駅としての一体、そういう大きなターミナルの一部の部分もございます。そういった中で、乗り継ぎ機能ですとか案内機能、それから、最近で言えば外国客の増加みたいな、そういうことを踏まえた配慮というものを引き続きお願いしたいと思っております。

それからあともう一点は、防災という点ですけれども、やはり梅田駅周辺地区は最大の鉄道客が集中する地点であります。前回の阪神・淡路大震災でも、そういった意味では早朝に起きたということで、帰宅困難者の問題というのは経験をしていないわけですけれども、あるいは東日本大震災でもある意味、確かに帰宅困難者の端緒になる状況は生まれましたが、関東自身が被災したわけではなかったもので、それほど大きなことではなかったかと思っておりますけれども、改めて南海トラフ地震なども踏まえて、その防災機能を担う要素がこのうめきた地区にもあるのだという点で御検討をお願いしたいと思っております。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

先ほどのわかりやすいサインシステム、少し前回もお話が出たので、我々も関係の方々とお話をして、実は12月、今月なんですけれども、民間の方々が主体となって、JR西日本さん、阪急さん、阪神さん、グランフロントのTMOの方、地下街、それと大阪市街地開発、それに地方整備局さん、運輸局さんと我々が入って、どういうふうに、あのあたりをわかりやすいサインにしていくかという検討会を起ち上げました。

この中で、単にサインだけにとどまらず、大阪駅周辺全体が一体的にスムーズに回遊するためにはどうすればいいかというのを、あわせて検討していきたいと思っておりますので、

御協力よろしくお願いたします。

それでは、近畿地方整備局の植田部長、お願いします。

植田建政部長（国土交通省近畿地方整備局）

いよいよ来年度からのインフラ部分の整備も始まるということですので、整備局としては特に予算面、あるいは技術面でしっかりとバックアップできればというふうに思っているところがございますけれども、御承知のとおり予算について言いますと、国全体の社会保障費が非常に膨らんできているということで、公共事業はある意味、大変厳しい状況でございます。

とりわけ今後、防災減災対策、あるいは老朽対策といったところにシフトしていく中で、こういったまちづくり系の事業というのは非常に厳しい状況になっていくというのが予想されているという状況でございます。

こうした中で、予算をどう確保していくのかということでございますが、本日の資料にもございますように、やっぱりこの事業が大阪だけの問題ではなくて、関西全体の戦略的な事業なんだということと、さらには冒頭、橋下市長のお話でもございましたけれども、国が進めようとしている東京一極集中の是正でありますとか、あるいは、「まち・ひと・しごとづくり」ということを今言っていますが、そういったものの核となる事業なのだと、日本全体のことを考えても大変重要な事業なんですよということを、やっぱり官邸とか中央政府に向けてしっかりと発進していくということが重要になると思いますので、ぜひ市長さん、あるいは知事さんを筆頭に関西の経済界も一体となって、その辺の訴えをやっていただければということ、お願いをしておきたいというふうに思います。

それと、なにわ筋線の話が先ほどございましたけれども、いよいよ鉄道の地下駅事業も始まります。当然、特に新駅の部分でなにわ筋線との関係が、技術面でも相当調整する部分というのが出てくると思いますので、なるべく早期に計画を固めていただきまして、前広に整備局のほうにも情報をいただければというふうに思いますので、これもお願いをしておきたいというふうに思います。

以上です。

川田都市計画局長（大阪市）

ありがとうございます。

連立事業で地下化が、いよいよ来年着工でございます。我々としても、なにわ筋線に活用できるように、かなり設計で、なにわ筋線を反映した設計にしていく必要があると思っていますので、遂次情報を共有させていただいて御支援いただきたいと思います。

先ほど、ちょっと伊藤次長、途中で振ったんですけど、まだ何か御意見ございますでしょうか。

伊藤次長（内閣官房地域活性化統合事務局）

皆さんのお話に尽きていると思うんですが、お話がありましたとおり、これ大阪の問題だけではなくて、当然、関西全体の中で非常に梅田というのは残された宝でございますので、ぜひ、よく関西はすぐに「世界は一つ一つ」になってしまって、なかなか世界が一つにならないんですが、そこを象徴するような場になるといいなというふうに思っています。

そういう意味でいうと、「みどり」を中核とされるというのは、ある意味で逆転の発想というか、普通は中心というのは非常に、高度利用するというのは逆に空にしてしまうところ、ある意味で極めて日本的な逆転の発想の非常におもしろいまちづくりになるんじゃないかなというふうに、我々としても大いに期待したいというふうに思います。

スケジュール、ここにいらっしゃる皆さんで、ぜひ協力しながら、なかなかお金の問題、輸送の問題も当然、先ほどの公共事業のお金の問題、それから当然公園だって、ある意味でお金の固まりみたいなところがありますので、それぞれなかなか一步一步前向きに調整をしながらやっていかなくてはいけない部分もあろうかと思っています。我々としても、できる限りの協力をさせていただきたいというふうに思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

川田都市計画局長（大阪市）

どうぞよろしくお願いいたします。

知事、御意見お願いできますでしょうか。

松井大阪府知事

もう大体、それぞれ御意見、とにかくこのうめきた2期、関西の核にして日本を引っ張って行く2極をつくろうということだと思います。

これはやっぱり、先ほど話がありましたけれど、やっぱり50年、100年というスパンで

いろいろこの事業を成功させようということは、最初のイニシャルコストのところでは非常にまずく、これではいかんと思っていますので、この辺はもう瀬川さんと伊藤さんと、もう最初のスタートがそこからいろいろ積み上がってくると思いますので、その部分については、ぜひとも50年、100年間見た中での考え方をよろしくお願ひしたいと思っています。

公園をずっと維持管理するに当たっては、その間、ライニングコストを生み出していかねばなりませんし、これはもう少子化・高齢化社会で人口減少社会の中で、どうランニングコストを生み出すのという、最初にイニシャルが余りにもびっくりするような数字が出ますと、ランニングコストの生み出し方がなくなります。ぜひとも、そういうところをよく御検討いただいて、適正な価格みたいなやつを、ぜひお願ひします。

川田都市計画局長（大阪市）

それでは最後になりますが、市長から。

橋下大阪市長

関係者の皆さん、本当にありがとうございます。

篠崎さんも、そういうことでちょっと御理解ください。あとはもう、かき集めますから。1平方メートルでも2平方メートルでも、頑張ります。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

期待しています。

橋下大阪市長

ここまでこういう形でまとまりまして、今までのやり方になかった進め方で、本当に行政の各局もよく頑張ってくれたと思います。

繰り返し、もう言うことは同じなんですけれども、日本のためのプロジェクトですから、そういう意味で、この日本に二つのエンジンつくって、東京のエンジンだけじゃだめなんだということは誰もがわかっていることですから、東京・大阪のエンジンで、大阪のためだけじゃなく、西日本のため、関西のため、日本のためということで、その意識でさらに頑張っていきましょう。

繰り返しになりますけれども、空港との位置づけが今まで非常に薄かったところを、こ

ここまでよく引っ張って、空港との位置づけをはっきり打ち出してくれましたね。これを実現するのは最後、民間事業者さんと、それから行政の力がないと実現できませんから。空港、外国人観光客のことだけ言いましたけど、やっぱりビジネスをされている民間の皆さんは、空港との近さというのがビジネスが成功するかどうかを決める重要なポイントなので。都市ランキングでも空港アクセスというところで、大阪というのは非常にポイント低いですから。もう羽田と東京ががanganやっていますので、オリンピックに向けてもう向こうはがanganやっていますから、ちょっと大阪のほうも負けないように民間の皆さんと力を合わせて、しっかりやっていきましょう。

民間の皆さんも、とにかく力を発揮できるような場をつくるのが僕らの仕事ですから、民間の皆さんの意見を反映するような検討の場を、さっき言った早急にスピード感をもって持ち上げてもらって、民間の皆さんが活躍できる、本当にその場づくりにしっかり徹していきたいと思いますから、頑張ってください。

また、民間の皆さんもこれからもお力添えよろしくお願いします。何とか、これを関西の、日本の拠点としてしっかりつくってきたいと思います。ありがとうございました。

川田都市計画局長（大阪市）

どうもありがとうございました。

橋下大阪市長

篠崎さん、よろしいですか。

篠崎常任幹事（関西経済同友会）

かき集めることを期待しております。

橋下大阪市長

はい、へた地集めます。

川田都市計画局長（大阪市）

では、この内容を、今日は部会の案とするということで決したと理解しておりますので、よろしいでございますでしょうか。

それでは、本日の資料の内容をもちまして、部会の方針案として12月26日よりパブリックコメントを実施して、今年度内に案をとって方針として確定させていきたいと思えます。

では、これをもちまして本日の議事を終了させていただきたいと思えます。

皆様、まことにありがとうございました。